

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒それぞれが信頼される社会人としての基本を身につけている学校</li> <li>・個々の生徒の実践力と学力を両立させる学校</li> <li>・生徒の可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育成する学校</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな人間性と確かな学力、礼儀やマナー、規律ある行動など、信頼される社会人としての基本を身につけている生徒</li> <li>・専門的で特色のある学習活動を通して、高い創造力や国際感覚を身につけそれらを地域やグローバル社会に貢献できる生徒</li> <li>・異文化を理解し、自他共に認め合いながら互いの命や人権を尊重できる生徒</li> </ul>
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな人間性と確かな学力、礼儀やマナー、規律ある行動など、信頼される社会人としての基本を身につけている生徒</li> <li>・専門的で特色のある学習活動を通して、高い創造力や国際感覚を身につけそれらを地域やグローバル社会に貢献できる生徒</li> <li>・異文化を理解し、自他共に認め合いながら互いの命や人権を尊重できる生徒</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い専門的知識・能力と指導力を有し、情熱を持って教育活動に取り組み、生徒の意欲や向上心を喚起できる教職員</li> <li>・学習指導や生徒指導等の教育活動において、粘り強く生徒に接し、理解に努め、一人ひとりの生徒にきめ細かく対応できる教職員</li> <li>・新たな取り組みに積極的にチャレンジする向上心を持ち、他の教職員と協力して学校経営や教育内容の向上を目指すことができる教職員</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈生徒〉 全学年対象アンケートより、わかりやすい授業と充実した進路指導を期待している</p> <p>〈保護者〉 全保護者対象アンケートから教科指導や進路指導の充実を期待している</p> <p>〈地域〉 生徒と共に学ぶ日本語基礎講座の受講希望及びデザインや英語力を活かした活動など高校生の社会貢献を期待している</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>〈保護者〉 学力向上と礼儀やマナーを身につける</p> <p>〈中学校〉 多様な生徒の受け入れを期待している</p> <p>〈地域〉 学力、コミュニケーション力を向上させる</p>	<p>〈保護者〉 ・学校教育への理解と積極的な協力を行う</p> <p>〈中学校〉 ・学校生活が適切にできる生徒を育てる</p> <p>〈地域〉 ・卒業生の積極的受け入れを行う</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○アンケート結果から生徒の満足度が高いことがわかる。満足度が低い点については、生徒の良い点・努力した点を褒めることにより生徒を伸ばしてほしい。</p> <p>○生徒に早い段階から目的意識を持たせるためには、進路ガイダンス等を科別に実施することも必要である。</p>	

(4) 現状と課題	教育活動	専門性の高い学科で、これまでの取組を通して両科とも学ぶ意欲を持った生徒が増加傾向にあるが、精神的な支援が必要な生徒や生活習慣及びマナー指導などの指導体制の充実が必要となっている。また基礎学力等に課題のある生徒や高い学力を有しながら日本語の習得に課題がある生徒などへの個別対応等を組織的に推進できる態勢の整備が必要である。
	学校運営等	進路指導の充実と低学年からのキャリア教育の推進を図る等、学校全体の指導体制を確立していく事が必要となっている。 基本的な生活習慣の確立と集団生活の中での自己管理ができるようにするための生徒指導体制の充実が必要となっている。 特別な支援が必要な生徒や日本語能力が不十分な生徒など、個々の生徒の実態把握と状況に応じた支援体制をさらに充実させることが必要となっている。

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3年間を見据えた系統的進路指導プログラムに沿ったキャリア教育の推進を行う。</li> <li>・ 基本的な生活習慣やマナー指導を徹底し、生徒指導の充実を図る。</li> <li>・ 外国人生徒支援教育の充実を図る。</li> <li>・ 人権感覚を醸成し、異文化理解や生命の尊厳にかかる教育の充実を図る。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力の向上を目指し、授業の改善と教職員の指導力向上を図る。</li> <li>・ 応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流を積極的に行い、両科の質の向上を図る。</li> <li>・ 学校の特徴を活かした組織作りと改善活動を積極的に行う。</li> <li>・ 地域の人々と協力連携して貢献活動を行い、学校の情報を地域へ積極的に発信する。</li> <li>・ 生徒や保護者にとって安心安全な教育環境を整備する。</li> <li>・ 教職員が充実した業務を行うため、総勤務時間を縮減し、執務環境を整備する。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
系統的な進路指導プログラムに沿ったキャリア教育の推進を行う	<p>(1)進路意識の向上</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年別進路ガイダンス、校内研修の実施</li> <li>・キャリア教育3年間の指針及び内容の構築</li> <li>・鈴鹿ロータリークラブの学年集会への参加</li> <li>・ガイダンス、講話等各学期2回以上</li> <li>・キャリア教育に関わる講話の実践</li> </ul> <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査における希望未定者の減少率50%</li> </ul> <p>(2)進路希望の実現</p> <p>進学希望者</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年制大学受験者の増加</li> <li>・希望に応じた課外等の組織的な取組</li> <li>・3年間を見据えた計画的な模試の実施</li> </ul> <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模試受験者応デ科30名以上、英コミ科20名以上</li> <li>・国公立大学合格者15名以上</li> </ul>	<p>(1)1・2年生5回、3年生3回の進路ガイダンス等実施、鈴鹿RCによる各学年講話1回</p> <p>進路希望未定者 2年 18.8 → 22.5%、1年 3.1 → 14.5%</p> <p>(2)模試受験者 応デ科 3年 14名、2年 17名、英コミ科 3年 6名、2年 7名</p>	<p>※</p> <p>◎</p>

<p>系統的な進路指導プログラムに沿ったキャリア教育の推進を行う</p>	<p>就職希望者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動指標 ・「我究」のプログラム実施 年間12回実施</li> <li>・社会人としての能力、基礎学力等の向上をはかる取組、課外等の実施</li> <li>・企業訪問等による求人開拓</li> <li>○成果指標 ・求人数の増加 昨年度比20%増</li> <li>・1次試験による合格率90%以上</li> </ul> <p>(3) 教職員全員による礼儀、マナー指導の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動指標 ・全員による面接指導の実施</li> <li>○成果指標 ・100%実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大7名合格、結果待ち3名、*4年生大学受験者40名</li> <li>・我究16回実施</li> <li>・求人数は昨年度比20%増</li> <li>・一次試験内定者95%(20/21)</li> <li>(3) ほぼ全教員が面接指導実施</li> </ul>	
<p>外国人生徒支援教育の充実を図る</p>	<p>(1) 生徒の実態の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動指標 ・担任、教科担当者等との情報交換会実施</li> <li>・年間3回以上実施</li> </ul> <p>(2) 日本語能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動指標 ・日本語能力試験受験者数及び合格者の増加</li> <li>○成果指標 ・第1言語が日本語ではない生徒が3年次7月までに取得するN3以上の合格率100%</li> </ul> <p>(3) 奨学金などの紹介と申込など経済的に困難な受験の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動指標 ・説明会と申請手続き指導の充実</li> <li>・生徒、保護者対象それぞれ年間2回以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 国際サポート委員会8回実施</li> <li>(2) 受験者63名(昨年比-7)、N3以上合格者43名(昨年比-16)</li> <li>・3年T講座生徒N3以上合格率75%</li> <li>(3) 各奨学金ごとに説明会実施</li> <li>・生徒、保護者説明会各1回</li> </ul>	
<p>生徒指導の充実を図る</p>	<p>(1) 指導の機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動指標 ・アンケートと面談の実施</li> <li>・面談内容等の共通理解、情報共有</li> <li>・各学期1回100%実施</li> </ul> <p>(2) 服装、頭髪、礼儀、マナー指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動指標 ・年5回の全校集会実施</li> <li>○成果指標 ・100%実施</li> </ul> <p>(3) 遅刻数・指導数(イエローカード発行数)を減らす取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動指標 ・個別面談や個別指導の推進</li> <li>○成果指標 ・昨年度比30%減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) アンケート・面談各学期1回実施100%</li> <li>(2) 頭髪服装指導年8回実施</li> <li>交通マナー、公共マナーについての講話実施</li> <li>(3)</li> <li>・遅刻数2824</li> <li>昨年度比-8.5%</li> <li>・イエローカード指導数673</li> <li>昨年度比-1.5%</li> </ul>	

<p>人権感覚を醸成し、異文化理解や生命の尊厳にかかる教育の充実を図る。</p>	<p>(1) 人権教育に係る取組  ○活動指標 ・人権 LHR 及び講話等実施  ○成果指標 ・100%実施</p> <p>(2) 異文化理解及びグローバル人材の育成に係る取組  ○活動指標 ・講話等の実施及び地域活動、情報発信  ○成果指標 ・100%実施</p> <p>(3) 生命の尊厳に係る教育  ○活動指標 ・各学期1回の講話、また LHR 等での取組  ・教員向けアングーマネジメント研修の実施  ○成果指標 ・100%実施</p>	<p>(1) 各学年のテーマに沿い各学期1～2回実施  (2) 異文化理解として多文化共生ネットワーク行事に参加  (3) ・長島ようが氏によるトーク&amp;ライブ・事後学習では自らのあり方、命の尊さについて考え直すきっかけとなった。  ・アングーマネジメント研修は今後の生徒対応に生かせる研修となった。</p>	
--	--	---	--

**改善課題**

- 将来の生き方にかかわる問題として、生徒が1年次から目的意識を持ち、その実現に向けて取り組むことができるようキャリア教育プログラムを作成するとともに総合的な学習の時間の充実を図る。
- 頭髪・服装については、以前に比べ大きな乱れもなく、落ち着いてきているが、マナーや規範意識に課題がある生徒もいる。家庭との連携や進路指導の側面からも生徒にアプローチし、生徒自身に考えさせることも重要である。
- CLD 生徒の日本語力の向上に向け、先進校等の情報を入手できるよう関係機関との連携を深め、一層の教材開発を進める必要がある。
- 飯野高校の特色を生かした異文化理解教育の充実を図る。

**(2) 学校運営等**

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>学力の向上を目指し、授業改善を行い、教職員の指導力向上を図る</p>	<p>(1) 授業の改善  ○活動指標 ・年2回以上5日間の授業公開の設定  ○成果指標 ・100%実施</p> <p>(2) 教職員の教科指導力向上  ○活動指標 ・授業参観と研究協議の設定  ・校内研修の実施、校外研修への参加推進  ・学力等に応じた授業内容、アクティブラーニング等の研究の推進  ○成果指標 ・授業参観等参加全員実施  ・研究協議または授業見学シートの提出 100%</p> <p>(3) 補習や宿題期間による学習習慣づくりの実施  ○活動指標 ・考査前補習と各学期の宿題期間  ・学力層に応じた補習、課外等の実施  ○成果指標 ・100%実施</p> <p>(4) 英コミ科における英検や TOEIC の受験者数増加  ○成果指標 ・英検2級以上合格者20名以上</p>	<p>(1) 公開授業1学期4日、2学期2日実施</p> <p>(2) ・英語、日本語教育、国語で研究協議実施  校外研修参加者の増加  ・85%の教員が参加、うち36%が見学シート提出</p> <p>(3) 各学年・教科で実施</p> <p>(4) 英検2級以上合格15名</p>	<p>※</p> <p>※</p>

	(5) 応デ科における各種コンペへの参加数増加 ○成果指標 ・昨年比10%増	(5) 昨年度並みの参加	
応デ科と英コミ科の交流を積極的に行い、両科の質の向上を図る	(1) 応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流 ○活動指標 ・学年集会、行事、発表会、展覧会で実践 ・協働する機会の提供 ・各学期1回以上の実施	(1)・ファッションショー、卒業制作展、英語表現演習発表会、修学旅行等で交流	
学校の特徴を活かした組織作りと改善活動を積極的に行う	(1) 経営品質委員会による改善活動を確立 ○活動指標 ・年間2回以上実施 ○成果指標 ・100%実施 (2) 国際サポート体制の構築 ○活動指標 ・担任、教科担任、SSW、SC との連携 ・年間3回以上の実施 (3) 生徒指導委員会の定例化 ○活動指標 ・情報交換など毎月1回以上の実施 ○成果指標 ・100%実施	(1) 夏休みに「携帯電話・スマホの使用について」をテーマにグループミーティングを実施。 (2) 必要に応じ、随時実施、SSW・SC との連携を必要とする事例はなかった。 (3) 必要に応じ、随時実施	※
地域の人々と協力連携して貢献活動を行い、学校の情報を地域へ積極的に発信する	(1) 鈴鹿ロータリークラブと交流、連携を行う ○活動指標 ・地域清掃など貢献活動の実施。 ○成果指標 ・年2回、生徒参加率50% (2) 情報発信を積極的に行う ○活動指標 ・中学校訪問年3回以上 ・毎月の飯野高校 HP 更新 ・学校案内等の刷新 ○成果指標 ・100%実施 (3) 地域が主催の展覧会や県等からのデザイン依頼への積極的参加 ○活動指標 ・各コースの積極的参加 ○成果指標 ・年間5回以上	(1) 6月実施、生徒 90 名約 20% 参加 (2) ・各科、管理職による訪問 ・HP 随時更新 ・学校案内刷新 (3) ・ラッピングバスデザイン、三重県の森林環境教育イベント等多数参加	◎
生徒や保護者にとって安心安全な教育環境を整備する	(1) 生徒、保護者のニーズを把握するアンケートの実施 ○活動指標 ・年間1回実施 ○成果指標 ・100%実施 (2) 生徒保護者への携帯メールでの情報提供 ○活動指標 ・年間5回以上実施 ○成果指標 ・100%実施 (3) 学校の情報の適切な管理 ○活動指標 ・管理状況点検 年間1回実施 ○成果指標 ・100%実施	(1)・12月末実施  (2)・必要に応じ情報提供 ・100%  (3)・年2回実施 ・100%	※

<p>教職員が充実した業務を行うため、総勤務時間を縮減し、執務環境を整備する</p>	<p>(1)労働安全衛生を図る  ○活動指標 ・過重労働者への面談月1回  ・安全衛生委員会年2回実施</p> <p>(2)総勤務時間の縮減を図る  ・ノー残業デー年20日間実施(考査期間中等)  ・会議時間の縮減に向けた取組  ・総勤務時間縮減の推進  15h以下 10%増 45h超の半減  ・年休等取得の推進  昨年度比+1日取得  ・業務の効率化に係る取組の推進</p> <p>○成果指標 ・100%実施</p>	<p>(1)・産業医の判断による面談を実施  ・年2回実施</p> <p>(2)・会議時間1時間以内33/45  ・15h以下 51%(昨年度 73%)  45h超 15.8%(昨年度 11.3%)  ・18.7日(昨年 16.2日)</p>	
--	--	---	--

### 改善課題

- 生徒の学力向上に向け、課題を把握し、普段から授業内容やレベルについての研究協議を行うことが必要である。
- 学年会・部会・グループミーティングなど職員同士が話し合う機会を増やし、継続的に改善活動に取り組むことが大切である。
- アンケート結果を活用し、改善活動に繋げていくことが大切である。
- 定時退校日を特別な期間ととらえず、日頃から総勤務時間の縮減に向けて取り組むよう教職員の意識改革を図る必要がある。また多忙化の解消について、特定の職員に業務が偏らないよう平準化を図るとともに業務の見直しを行う必要がある。

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>○学校生活への満足度は高いものの、目的意識を持って学校生活に取り組んでいる生徒の割合が低いことから、「なぜ勉強すべきか」について一歩踏み込んだ指導が必要である。社会とのつながりや貢献を意識させる体験を通して成功体験を積み自尊感情を育てる活動を取り入れる。</p> <p>○総勤務時間の縮減について、子どもたちと接する時間をコアにし、仕事の整理をするなど教職員の意識改革が必要である。</p>
----------------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>○子どもたちが早期に目標を定め、目的意識をもって学校生活に取り組むよう、「総合的な学習の時間」をはじめキャリア教育に関する全体計画を作成し、教育活動に取り組む。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>○子どもたちの変化・成長がわかるような成果指標を設定し、改善活動に取り組む。</p> <p>○行事や会議など前例踏襲をやめ、子どもたちにとって何が大切かを基準に見直し、縮減した時間を子どもと向き合う時間に当てる。</p>